

「お茶」とともに歩んで創業113年 製茶産業の未来を牽引するサポート企業

静岡 静岡県掛川市と言え
ば、誰もが知るお茶
の中心産地。全国のお茶
が集まる掛川市に本部・工
場を構えるカワサキ機工株
式会社は、1905年の創
業以来、「製品を通じて顧客
の利益を図る」を第一の社
是として、製茶機械や茶園
管理機などの提供で、日本
の茶業発展を陰で支えてき
たサポート企業だ。



川崎 洋助 社長

味の洋菓子人が人気を博した
り、お洒落なカフェで美味
しく淹れた日本茶が高級メ
ニューとして供されるなど、
お茶の消費の仕方は変わっ
ても日本茶を求める声には
根強いものがある。

一方、欧米諸国やアジア
圏でも、健康志向の高まり
から「Green Tea」の魅
力が再評価され、緑茶ブー
ムが起きている。実際に2
017年の日本茶輸出額は
143億円となり、5年間に
2倍以上の伸びを見せて
いるのだ。

そんな中同社は、17年12
月、経済産業省が主管する
「地域未来牽引企業」に選定
された。これは、地域の特
性を生かして高い付加価値
を創出し、地域の事業者に
対する経済的波及効果を及
ぼすことで、地域経済を力

強く牽引する事業をさらに
積極的に展開することを期
待された選定。同社が創業
113年の歴史を踏まえて
なお、持ち前のチャレンジ
精神を発揮して、日本の茶
業発展のための新たな取り
組みを展開していることが
評価されたものと言える。

製茶機械から茶園管理機へ
産官学連携の技術開発も

1905年、川崎工場と
して創業した同社は、当時
手探みで行っていた製茶作
業を自動化する製茶機械を
研究試作。八木家より特許
を譲り受けて八木式粗揉機
製造販売を開始したのが、
同社技術革新のDNAの始
まりだ。

以来、煎茶分野を中心に
蒸機、小手精揉機、自動乾
燥機、生葉自動コンテナな



同社の若手社員たち

どの荒茶加工設備の開発や、
さらなる自動化・大型化に
取り組み、製茶業界の生産
性向上に寄与してきた。

その間、1969年には
中小企業合理化モデル工場
に指定されたり、1983
年には連続自動機械開発の
功績で科学技術庁長官賞を
受賞するなど、数々の誇ら
しい表彰も受けている。

技術革新のDNAは製茶
機械に留まらず、茶園管理
機の開発にも及ぶ。200
0年には乗用型摘採機KJ
シリーズを、01年には乗用
型中刈機KJPを、さらに
02年には乗用型防除機KJS
を相次いで開発するなど、
人手不足に悩む茶園の合理

化・自動化にも大きく貢献
している。



「フェスタカワサキ2017」の様子

さらに近年では、製茶機
械で培った蒸気・乾燥のノ
ウハウを生かして乾燥食材
用の高圧蒸気殺菌機や各種
乾燥機を開発、一般食品分
野に進出するなど、その開
発意欲は留まるところを
知らない。

製茶作業が機械化されて
110余年。常にお茶と正
面から向き合ってきた同社
は、産官学連携による新た
な技術の研究開発や創出に
も取り組んでいる。

国立研究開発行政法人・
農研機構との連携では、乗
用型茶摘採機に装着するア
タッチメントで、茶直掛け

栽培用被覆資材の被覆・除
去装置を開発。これまで手
作業で行われていた被覆・
除去作業の機械化で大幅な
省力化が期待されている。



広大な本部・掛川工場

静岡県農林技術研究所との
連携では、大規模なレタス
栽培体系を踏まえたレタス
運搬機を開発するなど、そ
の活動領域は実に幅広い。
さらに、茶の生産現場か
ら流通現場まで幅広く活用
することが出来る茶成分分
析計は、国内シェア100



国内シェア100%の茶成分分析計



省力化大型製茶プラント



茶直掛け栽培用被覆資材の被覆・除去装置

のデファクトスタンダー
ド。JICA事業である、ス
リランカでの紅茶生産品質
管理体制実現のためにこの
装置が導入され、紅茶に誇
りを持つ現地人にも高く評
価されている。

先人が築いた製茶理論と先
進的な知識・技術を融合さ
せ、今後も世界中の人々が
安心して飲めるお茶を生産
できる設備・機械を提供し
続けていきたい」

と、川崎社長はお茶の持
つ将来性に目を輝かせる。
現に、抹茶・パウダーテ
ィーへのニーズは、米国の
例を引くまでもなく各食品
業界でも増大しており、同
社ではその需要拡大に込め
るために、高能率型碾茶ラ
インを開発。新碾茶炉開発
で、省エネと飛躍的な能率
アップを実現した。

また、これまで紅茶製造
に使用してきたCTCを緑
茶製造に応用、CTC緑茶ラ
インを開発するとともに、
さらに高能率新碾茶ライン
と組み合わせた「ハイブリ
ッドライン」も開発。相次
ぐ新製茶法への挑戦で、緑
茶、抹茶、紅茶、烏龍茶等
種類豊富な製茶を可能にす
るラインを整えている。

お茶問屋の(株)川崎園のほ
か、九州地区のアフターサ
ービスを担当するカワサキ
テクノ(株)、中国向け茶刈機・

茶園管理機を生産する浙江
川崎茶業機械有限公司など
グループ4社を形成する同
社は、未来を拓く若い力の
参加も歓迎している。
「既成概念にとらわれず、
自分の意見をはっきり言え
る人材。チャレンジ精神に
あふれ、失敗を恐れない人
材に来て欲しい。海外への
展開も含め、新しい技術の
開発と丁寧なコンサルティング
で、茶業の明るい未来
を切り拓いていきたい」
と、川崎社長は明日への
意欲を語っている。(木)

【会社データ】

本部・掛川工場 静岡県掛
川市伊達方滑川810-1
☎0537-27-1725
本社 静岡県島田市金谷栄
町347-8
創業 1905年
設立 1952年9月
資本金 1億円
従業員数 262名
売上高 62億円
事業内容 製茶機械・茶園
管理機全般の開発・製造・
販売、食品殺菌装置販売
http://www.kawasaki-kiko.co.jp